

令和 7 年度広島大学文学部編入学試験 解答例又は出題の意図等

分 野	西洋哲学
-----	------

問 次の（１）～（３）のうちから二つを選んですべて日本語に訳せ。

外国語および西洋哲学史の知識に基づいて構文および文意を正確に読み取り，自分の考えとして咀嚼して論理的に表現することができているか。

和 7 年度広島大学文学部編入学試験 解答例又は出題の意図等

分 野	倫理学
-----	-----

〔Ⅰ〕

- (1) 倫理学の基礎用語の理解を見る。
- (2) 科学と哲学と芸術の違いとそれぞれの特徴を哲学的に説明できているかを見る。

〔Ⅱ〕 英文読解能力および説明文の構成力を見る。

- (1) Beatles boycott の内容について、本文に即して説明できているかを見る。
- (2) Canceling(Cancellation)について、「吊し上げ」と「想像上の共同体」という言葉を用いて本文に即して説明できているかを見る。

分野

日本史学

問一

(一)

一三六八年に成立した明朝を中心とする東アジアの国際関係が、一四・一五世紀に定着する。明朝は周辺諸国に朝貢を求め、それを行った使節を国王使とみなし服属させる。これを冊封という。加えて出入国の管理を海禁(自由出国の禁止)及び勘合(入国制限)で行った。これにより中国商人は厳しい管理のもと、自由な貿易活動ができず、その中国商人の役割を琉球王国が担って、東アジア諸国の懸け橋となった。明の海禁政策の背景には、朝鮮半島から中国北部沿岸のいわゆる前期倭寇の活動があり、朝鮮王朝の誕生も倭寇鎮圧に功績のあった軍人を明の皇帝が任命したことによる。琉球王国や朝鮮王朝の国王と異なり、日本の場合、室町幕府将軍が日本国王とされた。三代将軍義満は実質的に日本の統治者であったが、明皇帝の権威も借りて国内支配を進めたと言える。

(二)

古代の皇朝十二銭は発行されても普及せず、通貨的役割を果たせず、以後通貨のない時期が続く。しかし、十一世紀半ばには宋商人の手によって博多をはじめとする日本各地に唐物の一つとして宋銭が大量に持ち込まれ、日本の社会経済を支えることになった。平安時代末期の平清盛は、日宋貿易を展開するうえで、唐物入手のためにも渡来銭の流入を積極的に進めた。その結果、十三世紀前半に絹、後半に米の通貨としての役割を銭が受け継ぎ、外国からの流入銭、つまり渡来銭が日本国内の流通を担った。そうした中、年貢の銭納が次第に各地でみられるようになり、これを代銭納と呼び、各地で年貢の換金が行われ、地域市場も活発化した。中央市場と地域市場の間で為替取引も行われるようになり、そこで使用されたのが割符である。

分野

日本史学

(三)

① (れんしよ)

文書をしたためた人物の署名に連ねて署名をおこなったもの。鎌倉時代の執権と連署の関係のように、職名としても用いられた。

② (じとうけ)

年貢納入を地頭が請け負ったもの。荘園の中から領主として成長する過程で見られた形態。

③ (こくじんりようしゅ)

地頭職などをもとに領主的支配を周辺におよぼし、土着して地域領主として勢力を伸ばした。なかには戦国大名として成長した事例もある。

④ (たんせん)

大田文などの土地台帳に記載された「公田」田数を基準に賦課された一種の税。内裏造営など平安期の一国平均役が起原とされる。

問二

(一)

① (さんぼうりようちがえ)

江戸時代の譜代大名の転封の一形態。三つの大名家に玉突き状態で領地を同時に交換させること。

② (ひようじょうしよいちざ)

江戸時代の幕府の最高裁判機関である評定所の構成員のこと。主に三奉行と呼ばれる寺社奉行、町奉行、公事方勘定奉行によって構成される。

③ (せきもんしんがく)

江戸時代中期に、石田梅岩が創設した庶民の学問。

分野

日本史学

(一)

享保度仰せいだされ候御趣意並びに寛政度厚き御趣意を以て町々触れ渡しこれあり、町役人共始め一統相弁え居り申すべき儀に候らえども、年数相立ち候にいては、自然御触面取り失い候廉々少なからず相聞こえ候、此の度重き仰せ出されこれあるにつき、追々触れ示すべき儀に候らえども、諸事近年の仕癖相改め、享保・寛政度の御趣意に違わざる様相心得べく候。

問三

(一)

文久二年（一八六二）から一部の雄藩は露骨に国政に介入するようになり、なかでも長州藩は過激な攘夷論を旗印に草莽の志士や一部公家とも結びつき、翌年にかけて宸翰も左右するほどとなった。これに危機感を覚えた孝明天皇や薩摩藩、会津藩などは文久三年八月十八日に御所を武力で封鎖し、長州藩と三条実美らの公家は西国に落ち延びた。長州藩は挽回を図り翌元治元年（一八六四）に京都に攻め上ったが（禁門の変）、幕府などの連合軍に敗れて朝敵処分を受け追討対象となった。

(二)

①徳川慶喜

②一八六七年

③在京中であった将軍徳川慶喜が、慶応三年（一八六七）一〇月に徳川家が有していた政治の権限を朝廷に返上した行為である。当時慶喜と対立していた薩摩藩など一部の雄藩は、武力も辞さない形で対決を計画していたが、彼らは大政奉還によつて出鼻を挫かれることとなった。諸大名が上京を求められ新たな政治体制への模索が続いたが、一二月に薩摩藩が中心となって王政復古政変が起こり、新政府が発足することとなった。

令和 7 年度広島大学文学部編入学試験 解答例又は出題の意図等

分野

考古学

問Ⅰ【解答例】

3 領出土した襟付短甲については、中段と下段の地板枚数がそれぞれ 9 枚であり、筆者分類の鈍角 IIa 類の地板配置がみられる。また、9 号短甲は後胴最上段の帯金が省略され、最上段の地板配置も変則的になるなど、新出の要素を認めうる。鉾留短甲の安定的な生産段階に移行しているとみられる野中古墳に革綴襟付短甲が含まれることについては、襟付短甲に伝世期間を認めるか、革綴襟付短甲の製作が新しい段階まで存続したと捉えるか 2 通りの解釈が成り立つ。いずれも、襟付短甲という特殊性をふまえると判断をつけがたいが、野中古墳よりさらに新しい時期の築造とみられる奈良県円照寺墓山 1 号墳に革綴襟付短甲が複数例認められること、大阪府黒姫山古墳出土の鉾留襟付短甲がさらに後続する段階の製作と判断できることなどから考えると、鉾留技法導入後にも革綴襟付短甲の製作が継続されていた可能性は充分ありうるだろう。

問Ⅱ（１）【解答例】

弥生土器は、弥生時代に生産、使用された素焼きの土器である。粘土紐を積み上げて成形後、器面調整を施す。施文具で文様を描き、野焼きで焼成する。狩猟採集社会から農耕社会に変容する過程で、従来の縄文土器に朝鮮半島の無文土器の製作技術や彩文手法を採り入れて成立したとする説が有力である。

弥生土器には、壺形土器・甕形土器・高坏形土器・鉢形土器などがある。壺形土器は穀物や食糧などの貯蔵のために使用された。甕形土器は炊飯に使用されたため、被熱痕跡がある。いずれも水田稲作を中心とした農耕社会になってみられるようになった。また、盛り付け用の高坏形土器や取り分け用の鉢形土器などの食器がある。弥生時代後期には、弥生土器は小型化、無文化していく。弥生土器の製作技術は古墳時代の土師器生産に受け継がれた。

問Ⅱ（２）【出題の意図】

弥生土器の器種について、実際の出土遺物の形態を理解し、総合的な考古学的知識を習得しているか判断するために出題した。

問Ⅲ【解答例】

Christian Thomsen（クリスチャン・トムセン）

19 世紀、デンマークの考古学者である。コペンハーゲンの王立北欧古物博物館において、展示品を利器の材質によって分類した。そして、石器時代、青銅器時代、鉄器時代という 3 つの時代を経たことを示した。1836 年には、三時期法（三時代区分法）を提唱した。

瀬戸内技法（せとうちぎほう）

後期旧石器時代の石器製作技術のひとつである。平坦な面をもつサヌカイトなどの素材を石核として、規格的な翼状剥片を連続的に剝離して量産し、整形して国府型ナイフ形石器を製作する。

内行花文鏡（ないこうかもんきょう）

おもに中国の後漢時代に生産された連弧文鏡を指す日本の鏡種名である。鏡背中央、四葉などを配した鈕座のまわりに連弧を内向きに一巡させる。中国各地で出土する他、朝鮮半島の楽浪古墳や日本の古墳などからも出土する。日本列島で製作された倭製の内行花文鏡もある。

富雄丸山古墳（とみおまるやまこふん）

奈良県奈良市にある古墳時代前期後半の大型円墳である。伝出土品として石製品・鍬形石・合子・管玉・銅製品・三角縁神獣鏡などがある。近年、墳丘の造出しから新たに粘土槨がみつかった。木棺を覆った粘土層からは大型蛇行剣や、今までに例を見ない盾形銅鏡が出土した。

草戸千軒町遺跡（くさどせんげんちょういせき）

広島県福山市でみつかった鎌倉時代から室町時代の大規模集落である。芦田川下流の中州に遺存していた遺構が発掘され、中世の街並みが明らかになった。膨大な出土遺物からは多くの商工業者がおり、対外交易が行われていたと推測される。現在も残る明王院の門前町として繁栄したとみられる。

湿拓（しったく）

拓本は遺物などの表面に伸縮性に富む和紙や画仙紙をあて、凹凸によって表された文様や加工痕跡、文字等を墨で写し取ったものである。なかでも湿拓とは、画仙紙などを水張りし、油性の拓本墨などをタンポにつけて打つものである。考古学における記録の方法としてひろく利用される。

押型文土器（おしがたもんどき）

押型文土器とは、おもに縄文早期を代表する土器群である。尖底深鉢土器の器面全体に、山形・楕円・格子目などの刻み目をつけた棒状工具を押し当て、回転させて施文する。日本列島にひろく分布している。

横穴式石室（よこあなしきせきしつ）

古墳墳丘の内部に被葬者の遺骸を安置して装身具や副葬品を納める玄室を造り、それに入口からつながる羨道を造りつけた石積みの墓室のことをいう。横穴式石室は羨道入口付近にある閉塞石等を除去することで追葬が可能な構造となっており、古墳時代後半期に盛んに造られるようになった。

有舌尖頭器（ゆうぜつせんとうき）

有茎尖頭器ともいう。舌状の基部をもつ両面加工の尖頭器である。舌状の基部を茎として木・骨製柄の先端に装着し槍の穂先とする。小型種は石鏃との区別が難しいものもある。縄文時代草創期を中心に盛行する。シベリア地方周辺にもひろく分布する。

三ッ城古墳（みつじょうこふん）

三ッ城第1号古墳は広島県東広島市にある安芸地方最大の前方後円墳である。くびれ部に造出しを付設しており、5世紀前半に築造された。墳丘は三段に築成され、円筒埴輪や朝顔形埴輪が立て並べられた。後円部には3基の箱形石棺があり、そのうち2基は石槨で覆われる特殊な埋葬施設をもつ。

令和7年度広島大学文学部編入学試験 解答例又は出題の意図等

分 野

文化財学

問1

(1) 伝統的工芸品とは、昭和49年(1974)5月「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」で呼称が定められる。日本において一定の地域で主として伝統的な技術又は技法等を用いて製造される伝統的品を指し、令和5年10月までに241品目ある。

解答では、まず伝統的工芸品についての説明、都道府県名、品目が記されているかをみる。それにより物事の論述方法を習得できているか否かを確認する。次にその品目の特徴、形状の説明、また指定されるに至る分析、例えば地理的、歴史的、社会的要素および沿革、現状把握、将来展望が論述されているかをみる。本分野の講義をもとに作成した出題内容であり、方法論および論述思考をどれほど弁えているかを問う。

(2) 神明造および大社造は、飛鳥時代に起源が遡るとされる最古の神社本殿形式である。両者の重要な共通点として、身舎だけで構成された単純な平面であること、古式な意匠(屋根に反りが無い、組物を使わないなど)を有すること、棟持柱をもつことが挙げられる。その一方、神明造では本殿内部の全てが神の占有空間であり、神主であったとしても人の参入を許さないのに対し、大社造では神主が本殿内部に参入して祭礼が行われる。神社本殿は「神の占有空間を内包する建築で、そこに神が常在するとされるもの」を指すので、この観点からすれば、非参入式の神明造と大社造とは根本的な相違が認められる。ここでは本分野で学ぶ建築史学の内容が、どれほど理解できているかを問う。

(3) 神護寺所蔵の国宝紫綾金銀泥絵両界曼荼羅図は、高雄山神護寺に伝来するが故に高雄曼荼羅と称される。昨年修理が完成し、本年4月から6月にかけては、奈良国立博物館開催の生誕1250年記念特別展「空海 KUKAI ー密教のルーツとマンダラ世界」において、続いて7月から9月にかけては東京国立博物館開催の創建1200年記念特別展「神護寺ー空海と真言密教のはじまり」において陳列され、美術史学の世界において今年最も注目された画像である。

日本に初めて請来された彩色両界曼荼羅図は、入唐中の空海が師である恵果の検校により805年に宮廷絵師李真らによって描かれたものであるが、高雄曼荼羅はその大きさのままに、829年から833年頃、日本で金銀泥に置き換えて転写された。両界曼荼羅図とは何か、高雄曼荼羅が制作された経緯、その表現・技法上の特徴などに加え、もし興味を持って見学していれば、その感想も求めたい。文化財学の基本は、作品を「見る」ことだからである。

問II

しょうそういん まきえ けまん ぼんしょう ふんぞうえ えんなん おさらんま さとだいら
 ちょうな まいらど うらざいしき(うらさいしき) はだうらがみ かんそうねんぶつ
 みろくぼさつ こうとうさんざん

文化財学(美術・工芸・建築)分野を専攻する上で、知っていなければならない語句の基礎知識を問う。

分野

日本文学語学

問一

日本語学の基本的な術語について正確に理解できているかを問う設問である。音韻・表記・文法・語彙の各分野から出題した。二つの術語について、適切な事例を用いた説明があれば正解とする。

問二

(一) 紫式部日記

(二) 紫式部の手になること、平安時代中期の仮名日記であること、日記部分(中宮彰子の出産を軸として描写)と消息的部分(他の女房に対する批評や自己の性格、心境などを述懐)からなること、等の基本的事項を押さえた記述を期待する。

(三) 仮名文字で記されていること、基本的に女性の手になること、回想的であること、自照性が強いこと、等の特徴を、具体的な作品に即して記すことを期待する。

問三

近世文学史についての理解を問う設問である。近世には盛んに行われた文学の中で、明治以降ほぼ姿を消したジャンルには、漢詩文、狂歌などが挙げられる。雅俗にわたる広汎な知識と時代特有の趣味に裏付けられた文学は、明治以降の近代化の中で中心を占めることとなる小説などと異なり、新時代の価値観とは大きく離れたところでしか存在しなくなり、その愛好者も時代とともに減ってゆく。以上のような文学史的見通しをどの程度会得しているかが問われることになる。

分野

日本文学語学

問四

(一)

A

- ・ 関東大震災の翌年一九二四年創刊の雑誌『文芸時代』の同人たちの文芸活動。
- ・ 横光利一・川端康成・中河与一・片岡鉄兵・岸田国士らの同人と代表的作品。
- ・ モダニズムの先駆け。既成のリアリズムへの反発、斬新な表現上の工夫。
- ・ 同時期のプロレタリア文学等との関連。
- ・ 活動時期の短さや各作家のその後の転進の様相 などを記述すること。

B

- ・ 明治初年代からの小新聞や三遊亭円朝の講談本などによる先駆的試み。
- ・ 明治二十年頃から、山田美妙や二葉亭四迷らの文学者によって採用。
- ・ 特に模索されたのが、文末をどのように締めくくるか。「です」「だ」など。
- ・ 一時は衰退したが、自然主義・白樺派の頃に小説はほぼ完成。
- ・ 官庁の公用文などは文語体の使用が続いた ことなどを記述すること。

(二)

- ・ 喬の現実である「病鬱」「生活の苦渋」を指摘。
- ・ 「街では自分は苦しい」理由を考察。
- ・ 街や人と対比された自然の描写の手法を分析。
- ・ 喬が樺の木を凝視し、「視ること、それはもうなにかなのだ。自分の魂の一部分あるいは全部がそれに移ることなのだ」と感じる箇所が特に重要で、解説を付すこと。

分野

中国文学語学

【解答例】

問一

(一) (徐) 邈はこっそり酒を飲んで、酔いつぶれてしまった。

(二) ウ

(三) 酒の清き者を謂ひて聖人と為し、濁れる者を賢人と為す。

(四)

ひとつは、聖人（人として理想的な生き方をした人）の在り方を慕い、同じような道を歩むことを楽しむ、という意味である。

もうひとつは、『三国志』に見える故事に基づく、清酒を飲んで楽しむ、という意味である。

(五)

解答例 1 宰相の地位を退き権力を失ってしまったからには、もう自分を訪ねる人はいなくなってしまうだろうと、人々の無情を嘆いたり嘲笑したりしている。

解答例 2 宰相を辞めたので、権力にすり寄ってくるような人々はもう自分を訪ねてくることはないだろう。これからは俗世間との交わりを絶ち、聖人の道を楽しもう。

分野

中国文学語学

問二

(一)

陳仲拳（陳蕃）

徐孺子（徐穉）

(二)

陳仲拳（陳蕃）は、その言は士人の手本、その行いは世の模範となっていた。かねて官途に乗り出して、天下を肅清しようと志していた。豫章の太守となり任地に着くと、すぐに徐孺子（徐穉）の居所をたずね、まっ先に彼に会おうとした。すると主簿は、「われわれ一同の気持ちとしては、あなた様にまず役所に入っていたきたいと存じますが」といった。陳蕃は答えていった、「武王は商容の住む村里の門を通り過ぎる時、車の上から軾に手をかけて挨拶し、賢者を求めて席のあたたまる暇もなかった。私が賢者に礼をつくすのに何の不都合があるのか。」

令和7年度広島大学文学部編入学試験 解答例又は出題の意図等

分 野	英米文学語学
-----	--------

問Ⅰ

＜出題の意図＞

英語に関して基本的な語彙力や文法知識を有しているかを問うもの。なおかつ、それらの語彙力や文法知識に基づいて正確な英文読解ができるかを問うもの。

問Ⅱ

＜出題の意図＞

- (1) 未来進行形が未来形や現在進行形と違う点について十分な説明ができるかを問うもの。
- (2) 不定詞の名詞的用法に関する出題である。不定詞は動名詞とは違い「～するとすぐに～する」という含意があることを説明できるかを問うもの。
- (3) 下線部の **be** は仮定法である。このような古い仮定法の用法がアメリカ英語に残っていることを説明できるかを問うもの。

問Ⅲ

＜出題の意図＞

イギリス文学について基本的な知識を有しているかを問うもの。なおかつ、学んだ知識を明確に説明できるかを問うもの。

問Ⅳ

＜出題の意図＞

アメリカ文学について基本的な知識を有しているかを問うもの。なおかつ、学んだ知識を明確に説明できるかを問うもの。

問Ⅴ

＜出題の意図＞

英語に関して基本的な語彙力や文法知識を有しているかを問うもの。なおかつ、それらの語彙力や文法知識に基づいて正確な英文を作成できるかを問うもの。

令和 7 年度広島大学文学部編入学試験 解答例又は出題の意図等

分 野	フランス文学語学
-----	----------

出題の意図

〔 I 〕 次の全文を日本語に訳せ。

出題の意図：

仏検 4 級程度の語彙と文法知識を使って書かれた文章を読解する能力を評価する。

〔 II 〕 指示に従って、全文を書きかえよ。

出題の意図：

仏検 4 級程度の文法知識の習得度を評価する。

〔 III 〕 あなたの住んでいる街をフランス語で紹介せよ。

出題の意図：

仏検 4 級程度の語彙を使い，身近な事柄をフランス語で説明する能力を評価する。

〔 IV 〕 次のフランス文学に関する事項の中から五つ選択し，解答欄の()内に選択した事項の番号を記入のうえ，日本語で簡潔に説明せよ。

出題の意図：

- ・フランス語文学に関する基本的な知識の習得度を評価する。
- ・学んだ知識を簡潔に説明する能力を評価する。

令和 7 年度広島大学文学部編入学試験 解答例又は出題の意図等

分 野

言語学

〔Ⅰ〕

人間のある一定の発話は、「完全な考え」と呼んでいるものを表現しているという点において、特別なステイタスを持つように思える。従って、もし私が“**It’s rather hot, today**”（今日はかなり暑い）と云えば、如何なる英語のネイティブスピーカーも私が何かしら完全なメッセージを伝えていると解釈するであろう。完全なメッセージを伝えることになる“**It’s rather hot, today**”（今日はかなり暑い）とあなたが全く同じことを言えるということにも注意を払いなさい。しかしながら、私がこれを日曜日に言って、あなたが月曜日に言うとなると、意思伝達されるメッセージは違ったものとなる。言語学者はこれを表現された**命題**が異なると言う。

命題とは、「はい、それは真である」または「いいえ、それは偽である」と我々が言えるような文の意味的側面のことである。命題は世界に包括される事態を記述するものであり、命題に対する真偽に帰することを許すその事態との一致を述べるものである。

我々は異なる命題を表現していても、それらに対して全く同じ言語形式を使用していることにも注意しなさい。我々はこれらを同じ**文**と呼んでいる。この些細なシナリオは我々に統語論における中心的な考えの把握を提供する。そしてそれは、同じ形式をもつ**発話**を超えた抽象的なものとしての文の考え方である。言語形式は命題に対して重要なものとはならない。

〔Ⅱ〕

(1)

guru ‘teacher’
bayi ‘baby’
buku ‘book’
prahoto ‘truck’
kucing ‘cat’
kera ‘monkey’

se- ‘one’
dua ‘two’
tiga ‘three’
lima ‘five’
enam ‘six’
tujuh ‘seven’

ini ‘this, these’
itu ‘that’

orang ‘-s’
buah ‘-s’
ékor ‘-s’

(2)

- ・接頭辞 *se-*は「1」を意味する形態素。
- ・*orang*, *buah*, *ékor*はそれぞれ「人」、「事物」、「動物」の名詞の前に現れその集団を表す。
- ・従って、*se-buah*と*se-ékor*は、それぞれ「1かたまりの事物」、「動物の1集団」という意味になる。
- ・データにはないが、*se-orang*という語が存在することが予想され、それは「1グループ」という意味を表すと考えられる。

令和 7 年度広島大学文学部編入学試験 解答例又は出題の意図等

分 野	言語学
-----	-----

(3) インドネシア語の名詞句が＜(数詞)＋(序数詞)＋名詞＋(指示詞)＞という統語構造であることに関して具体例を用いて説明していること。